

* はじめに：

* 「あなたがたは御霊の人!」：ガラテヤ6：1-10；ローマ8：5-6

1) 靈性：基本的なこととして（イントロダクション）：

① 「今、どうして靈性か?」：Spirituality (Spiritual theology; Christian Spirituality)

の学びの必要性：

* ①今、世界で起こっていること：

* ②日本では？

* ③これをどうみるか。

A：分析・解釈：

B：否定的な反応：

C：積極的な反応：

* ④「靈性 (Spirituality・Spiritual Theology・Christian Spirituality)」についての学びの必要性：

* ⑤注目してみたいこと：「Religious ではないが Spiritual である」

② 「定義は難しい!」「靈性」の用語の定義の試み

* ①定義の難しさ：

* ②難しさの理由：

* ③多様な定義と可能性：

A：「上からの定義」と「下からの定義」：

B：三つのレベルの靈性：

C：その他：

③ 「古くて新しい言葉!」：πνευματικός (靈的：Spiritual) の意味とその歴史 (簡単に)：

* ①聖書において (パウロの用法から)

A：πνευματικόςの用法：データ

B：πνευματικόςの意味：

* ②歴史の中で：

A：πνευματικός「ラテン語：spiritalis; spiritualis > spiritualitas (靈性)」

B：聖書的な意味 (パウロの意味) をもった「spiritualitas」の歴史

C：ポストモダンにおいて：

2) 福音主義：基本的なこととして（イントロダクション）：

① 「福音主義」とは?その歴史と特徴

* ①「福音主義とは?定義の難しさ

* ②「ルーツはどこに?」福音主義の歴史 (簡単に)

A：「福音主義」：用語のルーツ?

B：「福音主義」：意味のルーツ?

* ②福音主義の特徴：

A：例として：マグラス、Stackhouse、McKim、Bebbington・・・

* ③とくに注目したいこと：

A：JEAとNAE：「福音主義、福音派」の意味の広さの違い

B：もっとも大切にしたいこと：「福音を信じ、福音を宣べ伝え、福音を喜び、福音のために生きる者たちである」

② 現代の福音主義神学の課題（特に）：

* ①福音主義（神学）が直面している諸問題：

* ②その中でも特に重要なこと（「霊性」との関わりで）：

A：ポストモダンにおける神学的方法論の諸課題：

B：ポストモダンにおける他教派（リベラル、カトリック、ギリシャ正教）との関係・交わりにおける諸課題：

3) 神学と霊性（より広く）について：

① 歴史の中で「神学と霊性」：

* ①カトリックの歴史における「神学と霊性」：

* ②ギリシャ正教の歴史における「神学と霊性」：

② ポストモダンにおける「神学と霊性」：

* ①状況：全体的にどんなことが起こっているのか。

* ②分析：

4) 福音主義神学と霊性の関係について：

① 福音主義神学と霊性：

* ①福音主義の「神学」とは？

A：「神学」とは？

B：「よい神学」とは？

C：「神学」の見直し・確認：

* ②福音主義神学と霊性

A：分離（二元化）の問題：

B：一方が他方を飲んでしまう？

C：密接な関係にある「神学と霊性の結婚！」

D：積義と霊性

② 福音主義神学のための霊性

* ①アンバランス（「神学」だけ）の問題：

* ②歴史的に：

* ③「霊性」の必要性とその働き

③ 霊性のための福音主義神学

* ①アンバランス（「霊性」だけ）の問題：

* ②歴史的に：

* ③「神学」の必要性とその働き

5) 福音主義的靈性神学を求めて (総まとめ) :

① 福音主義神学の主な特徴 (上記) と靈性について

- * ①「聖書」と靈性
- * ②「福音」と靈性
- * ③「回心の体験」と靈性
- * ④「宣教・伝道・証し」と靈性
- * ⑤「多様性」と靈性
- * ⑥その他:

② これまでの「聖化論」と同じなのか。

- * ①これまでの「聖化論」や「弟子訓練」など:
- * ②違いと関係

③ 福音主義的靈性神学の構築に向けて :

- * ①もう一度、真の「靈性」について・・・図表
 - A : パウロの「Spirit-uality」を核にして :
 - B : 聖書的な靈性「聖書全体からの「靈性像」を考える」:
 - C : 歴史的な靈的知恵「キリスト教界のもっている靈的遺産から」:
 - D : 人間論的うえ渴き「Image-bearerとして」:
- * ②福音主義的靈性神学の構築にどうしても必要なもの
 - A : 聖書的 :
 - B : 三一的 :
 - C : 教會的 (個人的であると同時に) :
 - D : 罪の現実 (靈性の反対) :
 - E : 十字架の強調 (義認にも、聖化にも)
 - F : 伝道的・宣教的 (この世界の靈的渴きや必要を見る)
 - G : 人間を全人格的に捉える (敬虔と行動のバランスも)
 - H : 献身的 (ナルシズムの危険あり)
 - I : 真のエキュメニカルを求める。
 - J : 「御靈に満たされ、御靈によって歩む」: 新しい契約に生かされている!

6) 日本 : 伝道・牧会や神学教育の現場で

- ① 日本の伝道・宣教において : 「靈的うえ渴き」を聴く :
- ② 日本の牧会において : 「マグラス : 『頭から心は遠い』」
- ③ 日本の神学教育において : 知育と「靈育」と実践の分離
- ④ その他 :